

# 漆芸美術館だより



(上から) 藤野靖男《金魚蒔絵花器》2020年(個人蔵) / 山岸一男《沈黒象嵌合子「能登残照」》2016年(東京国立近代美術館蔵) \*いずれも部分

# 93

石川県輪島漆芸美術館開館 30 周年記念特別展 メイド・イン・ワジマ―漆の時代―  
大本山總持寺開創七〇〇年記念 總持寺祖院伝来の名宝展―地域とともに歩む―  
石川県輪島漆芸美術館友の会 日帰り見学会実施報告  
展覧会関連イベント  
あなたの《推し》を教えてください!

2021年8月19日発行

# 石川県輪島漆芸美術館開館30周年記念特別展 メイド・イン・ワジマ―漆の時代―

2021年9月5日(日)～10月24日(日)

\*会期中無休・作品の入替えがあります

輪島が漆器産地として全国的に有名になった背景には、時代ごとに新たな漆芸の姿を模索し続けてきた先人たちのたゆまぬ熱意と努力がありました。現代に生きる私たちは、「漆の時代」を生きているという一本の線で彼らとつながっています。途絶えることなく人々が手渡ししてきたものは何なのか、そして、時代の変容の波に翻弄されながらも、新たな変化を遂げつつある輪島漆芸がこれからもものづくりを行っていく意義を、石川県輪島漆芸美術館の開館30周年の節目に探ります。

## 第1部 経営者たちの時代



退福舎《山水沈金箱》1881年頃（東京国立博物館蔵）  
Image : TNM Image Archives

売の商習慣、同業者集団が過当競争に陥らずに互恵関係を築いた組織作り、漆器業界のみならず地域貢献や政界への影響も踏まえた活動など、後世には財産ともいえるべき産地形成の取組みを行ってきました。

塗師仲間の退福講かふくこうは1877（明治10）年に退福舎と改称されました。退福舎は第1回国勧業博覧会にも出品し、製品画図掛による図案をもとに精巧な沈金でこれを再現しました。さらに1899（明治32）年に組織された輪島漆器同業者組合は、製品原料の流出や輪島産を偽称する他産地への警戒など、塗師屋同士の連合によって重要な役割を果たしています。

明治後期以降、全国各地の販路を確かなものとし、国内屈指の生産額を維持するようになること、塗師屋はその功名にふさわしい責任と立場を引受けることとなります。



輪島漆器合名小西会社《猿素彫短冊箱》  
1915年（個人蔵）

輪島漆器合名小西会社を創立した小西家の五代小西庄五郎、すなわち小西祐三郎は、日本郵船や大阪商船の豪華客船で使用される多量の什器発注に対応した。国内外の各種展覧会に精力的に出品を重ね、賞牌を獲得。本作はパナマ太平洋万国博覧会への出品作である。1918（大正7）年から1921（大正10）年まで、輪島町長を務めた。

輪島漆器の全国展開は、塗師屋と呼ばれる職能によって得た成果といえるでしょう。彼らは年賦販

## 第2部 技と意匠の時代

近代以降、腕のたつ職工たちは業界のキーパーソンとしてその名を知られるようになります。加えて、他産地に後れを取りながらも意匠の研究が少しずつ進められ、後に漆芸作家と呼ばれる人々が展覧会出品をはじめると、その動きは一気に拡大していきました。やがて重要無形文化財保持者や日本芸術院会員の輩出といった一つの到達点にいたるのは、多くの作家たちが個性を發揮し、ステージを高めた結果といえます。第2部では彼らの作品を紹介し、その功績を検証します。

天野文堂《華鳥節箱》  
1934年第15回帝展  
(石川県輪島漆芸美術館蔵)



天野文堂（本名わかの）は情熱と技術の鍛錬によって、女性で初めて沈金の彫りの道を切り拓いた人物。本作については1942（昭和17）年梨本宮守正王殿下の行幸の際、「本縣へ御成りアラセラレ候節奉供台覧候」との記録が残る。朱漆塗に肉上げを施したのち、色漆でザクロと小禽を描き、さらに沈金や毛彫を施す。

## 第3部 その先にある漆の時代

実用品として漆器が大量生産される時代は過去のものとなって久しいでしょう。公募展への出品と受賞は、作家として全国的な評価を得る有効な手段となった一方で、芸術的価値を漆芸品に求める消費者のまなざしもまた、めまぐるしく変化しており、誰一人として従来の「輪島塗」ブランドに依存し続けていくことは許されないので。個々の価値観に基づいた制作や発表を、活躍の場や世代を問わず取り上げ紹介します。ぶつかり合う感性の競演を、ぜひ展覧会場で確かめてください。

張間麻佐緒《群虫の秋二枚折屏風》  
1954年第10回日展北斗賞（個人蔵）



張間麻佐緒（本名政雄）は前大峰のもとで沈金を学んだ後、大阪で蒔絵師の安原祥窓に師事する。画業に強い憧れを抱き続け、漆芸においては、衝立や屏風など平面構成にこだわりをみせる。漆絵にも長じていた。

山田勘太《乾漆食籠「仙果」》  
2021年（個人蔵）



柔らかかつ自在な曲線を描く乾漆造形は、確かな髹漆技法によって、豊潤な艶があらわれた朱漆とよく調和している。

彦十蒔絵《鉄瓶 鉄錆塗》  
2015～2019年（個人蔵）

一見するとすべて鉄瓶に見えるが、左端の1点以外は精巧な漆芸品。若宮隆志をプロデューサーとする分業制作によって、その朽ちていくさまと内に秘めたストーリーを描き上げた。



# 大本山總持寺開創七〇〇年記念 總持寺祖院伝来の名宝展―地域とともに歩む―

2021年10月30日(土)～11月28日(日) \*会期中無休

總持寺は、永平道元禪師が開いた永平寺と並ぶ曹洞宗の大本山です。本年は曹洞宗の根本道場を担ってきた總持寺開創から700年の節目を迎えます。

總持寺には、永い歴史の中で寺有とされてきた

数多くの名品が伝わっています。本展覧会では、袈裟や五鈷鈴といった僧具のほか、絵画・漆芸・金工などの多種多様にわたる寺宝の数々から、優品の美をご堪能いただけます。また、中世から近世の考古学資料や、總持寺御用を務めた森岡家旧蔵の漆芸品を通じて、總持寺祖院の周辺地域とのかかわりを探ります。



二幅からなる《花鳥図》は狩野派初期の特徴をよく表し、裝飾性豊かで温雅な色彩を帯びています。右隻は音を立てて流れるような溪流と険しい岩を技巧的な筆致であざやかに表現し、樹木、花々、遊禽を近景、遠景に所狭しと配しています。左隻にはかすみがる遠景を描き、広大な空間を感じさせています。さらに白で統一されたボタンの花々が清廉なたたずまいに添えられています。横へ広がりをもせる構図から、もとは襖絵であったものを掛幅に仕立てたものとの説があります。



石川県指定文化財 伝狩野元信 《花鳥図》 室町時代

木瓜形の黒漆塗りの盆、その立ち上がりや小口に至るまでびっしりと螺鈿が敷き詰められています。見込みは裝飾的な形状の窓を設け、窓内の近景に馬と高士と従者、その周りに樹木や岩、波、遠景に樓閣山水

を配し、全てが小さく貼り並べられた薄貝によって表現されています。窓の周縁は8つの枠に区切ったうえ、七宝・亀甲・麻葉文などで埋め尽くされています。請来文物と呼ばれる海外からもたらされた品々の一例と言え、絢爛な裝飾と精細な技巧を楽しむことのできる優品です。



《唐物螺鈿木瓜形盆》中国・明時代

## 展覧会関連イベント

石川県輪島漆芸美術館開館30周年記念特別展

### メイド・イン・ワジマ—漆の時代—

9月5日(日)▶10月24日(日)

#### クロストークセッション オンライン配信

9月11日(土)公開  
桐本泰一×若宮隆志

9月25日(土)公開  
木谷陽子×田中義光

#### 若手作家によるトーク オンライン配信

9月18日(土)公開  
小西紋野

10月2日(土)公開  
井亀令子

#### 学芸員による ギャラリートーク

10月9日(土)  
10月16日(土)  
会場 展示室  
いずれも13:30から  
※要入館券

大本山總持寺開創七〇〇年記念

### 總持寺祖院伝来の名宝展—地域とともに歩む—

10月30日(土)▶11月28日(日)

#### 講演会

「總持寺祖院伝来の名宝について」

11月6日(土)14:00~15:00

講師 高島弘成氏(大本山總持寺祖院副監院心得)

会場 当館講義室(聴講無料)

「總持寺周辺の遺跡と環境」

11月13日(土)14:00~15:00

講師 張替清司氏(輪島市教育委員会)

会場 当館講義室(聴講無料)

\*会場内の適切な間隔を保つため、人数制限をさせていただく場合があります。

\*変更・中止となる場合があります。最新の情報は当館公式ホームページをご確認ください。



●●● 7月28日(水) ●●●

總持寺祖院

輪島市櫛比の庄 禅の里交流館

ビュー・サンセット(昼食)

輪島市天領黒島角海家

大本山總持寺開創700年にちなみ、市内門前町をめぐる日帰り見学会を実施しました。總持寺祖院では境内や禅宗の修行僧が用いる独特の器「度量器」の使い方について解説をいただき、旧角海家では往時の北前船廻船問屋と大寺院とのかかわりを偲びました。参加者からは「何度か訪れたことのある場所だが、説明をききながらゆっくり見学したのは新鮮だった」との感想をいただきました。

▼石川県輪島漆芸美術館友の会  
日帰り見学会実施報告

## ▼あなたの《推し》を教えてください！

作品人気投票実施中！あなたの一票が展覧会をつくります

開館30周年記念事業の一環として、漆芸美術館のコレクションを対象に、作品の人気投票を実施しています。投票結果は「みんなの《推し》コレクション」に推しコレ！」展に反映されます。あなたの思い出の作品もう一度見たい作品、大好きな作品に、清き一票を投じてください。みんなが選んだ《推し》と出合える展覧会、ぜひ参加してみませんか。投票は館内特設ブースで受け付けています。あなたのおすすめポイントもぜひ教えてください。



### ■投票期間

2021年10月24日まで

### ■対象作品

輪島漆芸美術館 館蔵品  
(所蔵品図録掲載作品)

### ■投票方法

エントランスホール特設会場にて所定の用紙に必要な事項を記入のうえ投票

\*投票の際にいただいたコメントはご紹介させていただきます。

### ■投票いただいた方の中から抽選で30名様に当館オリジナルグッズをプレゼント！

\*下記注意事項をよくお読みください。

- ・個人情報の提供はお客様の任意です。但し、記載のない場合は抽選対象外となりますので予めご了承ください。
- ・取得した個人情報はプレゼント発送以外の目的では使用いたしません。
- ・取得した個人情報は当館にて責任をもって厳正に管理し、プレゼント発送後速やかに破棄いたします。
- ・当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- ・抽選結果に関するお問い合わせはお受けできませんので、予めご了承ください。

## ご来館のお客様へお願い

■新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底のため、ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒をお願いいたします。また、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある場合、入館はご遠慮いただきます。混雑時には入場制限を行うことがございます。詳細な取り組みにつきましては、事前にホームページ上で「ご来館の皆様へ」をご確認ください。

### 開館時間

9:00~17:00  
(入館は閉館の30分前まで)

### 入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大学生	320円	210円
小中学生	150円	100円

### アクセス

- ◎飛行機  
羽田空港から約60分  
»のと里山空港から車で約20分
- ◎車  
金沢市内»のと里山海道利用=約100分  
(自家用車・大型バス無料駐車場有)
- ◎特急バス  
金沢駅»北鉄奥能登バス「輪島駅前」下車  
=約120分
- ◎「輪島駅前」から  
▶のらんけバス海コース「漆芸美術館」下車  
▶徒歩約15分



〒928-0063  
石川県輪島市水守町四十苅11番地  
TEL 076822-9788  
FAX 076822-9789  
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>